

第40回うつのみや子ども賞

受賞記念講演

2025年1月26日（日） ライトキューブ宇都宮

今回のうつのみや子ども賞受賞記念式典は第40回ということで、ライトキューブ宇都宮で盛大に開催されました。会場内にはこれまでのこども賞のあゆみを紹介するコーナーも設置され、授賞式後の受賞作家さんと選定委員（第40回）との記念撮影中には、現在の選定委員（41回）による「うつのみや子ども賞」の紹介も行われました。

「うつのみや子ども賞」の選定委員は、年度初めに申し込みのあった市内の小学5年生6年生で構成され、毎月4冊の本を読み、選定会議で読んだ本の中で一番お友達に薦めたい本を1冊「月の本」として選びます。年度末にはその中から最もお友達に薦めたい本として1冊を「うつのみや子ども賞」に選びます。今回受賞したのは、中学受験の6年生たちを描いた尾崎英子さんの著書『きみの鐘が鳴る』です。

尾崎さんの講演では、『物語を読むときは誰もが映画監督だ！』と題して、ご自身の制作活動について、物語の楽しみ方などをお話ししてくださいました。また、動画などあらゆるメディアが存在している現代で、本を読むというのは能動的な行為で、その中で自分の書いた本を手に取って読んでもらえただけでも嬉しい、加えてお友達に薦めたい本として選んでもらえ、とても嬉しいとおっしゃっていました。

講演中、会場に向かって「お話を書いている人？」という尾崎さんの質問に手を挙げた子も数人おり、将来の物語がここから生まれる可能性に思いをはせ、楽しみになりました。40年続いたうつのみや子ども賞は、現在第41回の作品の選定会議が毎月行われています。次回はどのような作品が選ばれるのか、今から楽しみです。

後半登壇された原ゆたかさんの「かいいけつゾロリシリーズ」は35年以上にわたって子どもたちの絶大な支持を集めています。ゾロリエピソードもふくめ、とても楽しい講演でした。



★上段：授賞式の一幕。下段：講演中の尾崎先生と原先生の様子。講演終了後のサイン会も大盛況でした